

特別支援教育におけるキャリア教育（４）

—キャリア教育の評価をどのように捉え、どのように進めていくか—

企画者 菊地 一文（国立特別支援教育総合研究所）
司会者 菊地 一文（国立特別支援教育総合研究所）
話題提供者 原 智彦（東京都立青峰学園）
森脇 勤（京都市教育委員会／京都女子大学家政学部）
松浦 孝寿（北海道帯広養護学校）
指定討論者 木村 宣孝（北海道札幌稲穂高等支援学校）

KEY WORDS：キャリア教育 特別支援教育 評価

【企画要旨】

本シンポでは、これまで実践事例を基にした「キャリア教育の本来の意義」の確認や、キャリア教育の視点による教育課程の見直し等による「学校及び学部間の接続」の工夫、「多様な学校課題に対する解決方策としてのキャリア教育」の可能性をテーマに検討を進めてきた。4回目となる今回は、昨年度の協議で話題となったキャリア教育推進上の課題の一つとして挙げられる「評価」をテーマとした。

近年、evidence（根拠）にもとづく教育が求められてきており、学校現場においても量的研究の知見や手法が活用され、個別の指導計画等における目標が具体的行動レベルで設定されるなど、データに裏付けられた目標設定や評価がなされるようになってきている。このことは指導・支援の質向上のために重要であり、望ましいことであるが、キャリア教育で捉える能力は「できる・できない」だけではなく、「課題への対処能力」を意味する competency であり、量的に測ることが難しいという指摘もある。

また、キャリア教育の評価対象は児童生徒だけではなく、教員や学校組織等、環境側も対象となる。また、評価方法は前述の量的評価のほか、行動観察などの記述的な記録をもとにした質的評価、ポートフォリオ評価などが考えられる。他にも児童生徒同士による相互評価、自己評価と他者評価を組み合わせるなど、評価方法について検討し、工夫することが求められる。

本シンポでは、キャリア教育の実践から得られた知見や、キャリア教育に関する評価の試行を基に、副題に示したようにキャリア教育の評価をどのように捉え、どのように進めていくかについて協議し、その具体的方策について検討したい。

【話題提供の要旨】

生徒本人の変容及び評価（原）

東京都立青峰学園では、5領域100項目で構成される「生活適応支援チェックリスト青峰版」を活用し、生徒による自己評価と教員等による他者評価を行っている。

単にスキル面を評価するだけではなく、評価結果の差異をふまえて生徒自身が「振り返る」ことによって、生徒が生活上学習上体験するもの・ことや現実を受け止め、本人なりに「意味づけ」「方向づける」ことや、生徒自身の自己理解につなげている。

また、この取組は、支援する教師側にとっても指導・支援の在り方を再考する機会にもなり、生徒との関係性にも変化をもたらすことにつながると考える。原氏には、これまでの実践から自己評価が高いタイプ、自己評価が低いタイプ、ほぼ同じタイプについて、それぞれのタイプごとの支援と生徒の変化について、事例を基に報告いただく。

教員及び学校の変容及び評価（森脇）

森脇氏の前任校である京都市立白河総合支援学校では、デュアルシステムを教育課程の中核に据えるとともに、時間軸・空間軸をふまえた一貫性・系統性のある生徒一人一人のキャリア発達支援の充実を図るために、本人が作成する支援計画である「キャリアプラン」を活用し、学校のみならず地域との連携・共同のもと、組織的な取組を進めている。当校のこれまでの実践は、生徒個々のキャリア発達が促されるだけではなく、教員や学校、地域といった環境側が開発され、変化していくことや、win-win の関係から生み出されるイノベーションの重要性を示唆しているといえる。

森脇氏には、主に環境側の変化に関する具体的事例をとおりして環境側の変化をもたらしたポイントについて解説いただくとともに、その変化を捉える視点について提案していただく。

キャリア教育の評価方法の検討（松浦）

松浦氏は、これまで地域資源を活用した授業づくりを実践し、キャリア教育を推進するとともに、これらの取組について定量的評価と定性的評価の観点や、アウトプット評価とアウトカム評価の視点等のバランスを大切に、評価を試みている。

具体的には、児童生徒の変容の把握に努めるとともに、地域との連携を積極的に推進しながら、キャリア教育の展開（取組）についてPDCAサイクルで評価することを試行しており、「連携」を評価する観点として、①協力的性、②継続性、③実践性、④発展性の4観点を採り上げている。また、評価方法として、地域の関係機関へのインタビューを実施し、その映像を基に関係者及び第三者による評定を行っている。松浦氏には、「地域との連携」の「アウトプット評価」を中心に、PDCAサイクルを踏まえての連携改善（充実）の方策について提案していただく。

【指定討論の要旨】

キャリア教育のもたらす特徴的な効果として、本人と環境との相互作用や「同時平行性」が挙げられる。様々な要因が複雑に絡み合い、キャリア発達につながっていると考えられるが、本人及び支援者の「変化」を丁寧に捉え、追跡していくことにより、キャリア教育の「評価」が可能になるのではと考える。

以上の話題提供を受けて、指定討論者の木村氏からは、キャリア教育における評価の意義と可能性について述べていただくとともに、その在り方についてフロアの意見も交えながら、討論を深めたい。

(KIKUCHI Kazufumi, TOMOHIKO Hara, MORIWAKI Tsutomu, MATSUURA Takahiro, KIMURA Nobutaka)